株式会社ユーティエス
DX推進ビジョン　2025年度

2025年11月13日 改定

代表取締役　　白倉 幹之

UTS Co.Ltd.

はじめに

当社は2004年の設立以来、「付加価値の高い製品づくり」と「変種変量生産への対応」を掲げ、金属加工を通じてお客様と地域の発展に貢献してまいりました。
生成AIやデータ活用の進展により、社会や産業の在り方は急速に変化しています。企業が持続的に成長していくためには、業務や組織を柔軟に変革し、デジタル技術を経営の中核に据えることが不可欠です。
2024年のDX認定取得以降は、生産管理システムの改善、工程管理の細分化、MATRIX Manageの導入、DX人材育成の仕組み化などを着実に実行し、生産性向上と属人化の解消を進めてきました。
これにより課題解決のスピードが高まり、年間250時間の業務削減が見込まれています。
今後は、これまでに構築した基盤をもとに、AIによる設計データの活用やプラズマ技術を活かした新事業の創出など、データとデジタルを軸とした価値創造に挑戦してまいります。
DX推進委員会を中心に、人材育成・品質向上・セキュリティ強化を一体で進め、組織全体のデジタル対応力をさらに高めていきます。当社は、デジタルを単なる効率化の手段にとどめず、社員一人ひとりの価値創造の原動力と位置づけています。
これからも「お客様・地域・社員をつなぐDX」を推進し、社会貢献と企業価値の向上を両立してまいります。

2025年11月13日

代表取締役　　白倉 幹之

企業理念、VSION、MISSION、VALUE、DXビジョン

企業理念
「今を追い越せ」

VSION
私たちは地域社会における「リーディングカンパニー」を目指します。

MISSION
私たちはお客様の期待を感動に変えていきます。

VALUE
私たちは様々な課題に挑戦し、技術の向上に努めます。

ＤＸ推進の取り組みーＤＸ戦略

ＤＸ戦略

1. プロセス改善による生産性向上	生産管理システムの改善として、工程別の作業想定時間を入力し完了時刻を予測できるようしたり、製品情報をマスター登録することでの時間短縮や管理工程の細分化で進捗の見える化を進めます。 また、工具を一元管理することで発注業務の自動化など生産性が向上した分、品質の高い製品を提供できるように取り組んでいきます。
2. 新規事業（プラズマ技術の応用）	保有するプラズマ専門人材を核に、洗浄・除菌等への適用を拡げています。 R&D→試作→小量産のステージゲートを運用し、実験・試作データを可視化して短いサイクルで事業性を確認しています。合格したレシピは標準手順に落とし込み、再現性の向上と量産移管を進めています。
3. DX人材の育成戦略	自社のDX推進を図るためには、生産管理課が中心に生産管理システムのマニュアルを作成し、属人的になりがちなシステム利用の手順を標準化することを目指します。

ＤＸ推進の取り組み –DXシナリオ

1. プロセス改善による生産性向上

(1)生産管理システムの改善

生産管理システムを3点改善します。
①工程別の完了予定時刻の入力②マスター登録③管理工程の細分化
システム改善することで生産性上げながら、品質アップと早期対応による顧客満足度を向上させます。

(2)製造工具の棚卸業務を簡略化

MATRIX Manegeを導入して製造工具を一元管理することで、発注業務を自動化することで棚卸業務が簡略化して作業に集中する環境を整えます。

2. 新規事業（プラズマ技術の応用）

(1)プラズマ技術の活用による新価値創出

プラズマ人材と装置技術を活かし、洗浄・除菌などの新しい用途開発を進めています。開発プロセスでは、R&D → 試作 → 小量産をステージごとに管理し、実験や試作のデータをデジタルで見える化・共有。経験や勘に頼らず、データに基づいた開発体制へと変革しています。

(2)データ活用と標準化による再現性向上

実験条件や試作結果、装置の稼働データを一元管理し、レシピや条件をデータベース化しています。合格条件は標準手順やマニュアルに反映し、再現性と品質の安定を実現。これにより、属人化を防ぎながら、短期間で量産化を判断できる開発モデルを確立しています。

3. DX人材の育成戦略

(1)生産管理システムのマニュアル作成

生産管理システムの使い方をマニュアル化して業務が属人化しないように進めます。

ＤＸ推進の取り組み –推進計画

DXビジョンに基づく推進項目	実施済み	継続中	推進計画
1. プロセス改善による生産性向上	(1)生産管理システムの改善 ②マスター登録完了済み (2) 棚卸業務の簡略化 MATRIX Manegeの導入して工具の棚卸を簡略	(1)生産管理システムの改善 ①工程別の完了予定時刻の入力 ②管理工程の細分化 ③製品在庫の棚卸の簡略化。	(1)生産管理システムの改善 省力化に向けた、図面データをNCデータに変換するAIツールの活用を検討。本ツールを導入することにより、属人的に行われていた、加工プログラムの作成が標準化がなされる。
2. 新規事業（プラズマ技術の応用）	-	-	**(1)プラズマ技術の活用による新価値創出** **(2)データ活用と標準化による再現性向上**
3. DX推進人材の育成	(1) 生産管理システムのマニュアル作成 ①生産管理システムの使い方を標準化させる	(2) 生産管理システムを通じた品質向上の勉強会 (3) CAD/CAMの定期勉強会	製作工程が異なる機械の研修会の実施

上記計画達成時の指標

プロセス改善による生産性向上　　業務削減時間　**250時間/年間**

ＤＸ推進の取り組み - ＤＸ推進強化における組織編制

当社では、DX戦略を効果的に推進するため、2023年9月に「DX推進委員会」を設置。
代表取締役の直轄組織として、経営層と現場をつなぐ意思決定と実行の一体運営を目的としています。

取締役会

代表取締役

DX推進委員会

生産管理課

1.生産管理システムの改善
2.詳細情報のマスター登録
3.管理工程の細分化
4.棚卸業務の簡略化
5.管理システム手順の標準化

DX推進委員会は、取締役会の方針に基づき、経営層・現場部門・技術担当者が連携しながら、全社横断的にDXを推進する組織です。

委員会では、次の役割を担っています。

- DX戦略および各施策の進捗管理
- 各部門からの課題抽出と改善方針の策定
- データ利活用、業務標準化、人材育成の推進
- IT環境整備およびセキュリティ対策の企画・監督

これらの取組を通じて、デジタル技術を活用した業務改善を全社的に推進し、現場起点で課題を迅速に解決できる体制を確立しています。

今後も、DX推進委員会を中心に、経営層と現場が一体となった運営を継続し、組織全体のデジタル対応力と変革推進力をさらに高めてまいります。

ＤＸ推進の取り組み - ＤＸ推進におけるIT環境整備

① プロセス改善による生産性向上

・生産管理システムの改善とマスター登録の標準化
・MATRIX Manage導入による工具情報の一元管理
・工程進捗をリアルタイムに可視化し、業務効率を向上

② 新規事業（プラズマ技術の応用）

・R&D～試作～小量産をデジタルで一元管理
・実験・試作データを可視化し、標準手順へ反映
・データ活用により短サイクルで事業化判断を実現

③ DX推進人材の育成

・生産管理システム操作マニュアルを整備し、属人化を防止
・教育履歴・スキルマップをデジタルで管理
・DX推進委員会を中心に、全社員のITリテラシー向上を推進

④ セキュリティ・運用体制の強化

・「情報セキュリティ基本方針」を制定し、全社員への定期教育を実施
・Security Action（二つ星）を取得
・アクセス権限の明確化、パスワードポリシー強化、多要素認証を導入